

■ $X = \mathbb{Z} \times \mathbb{N}$ における二項関係 \approx を

$$(q_1, p_1) \approx (q_2, p_2) \iff q_1 \cdot p_2 = q_2 \cdot p_1$$

により定義するとき、二項関係 \approx は X における同値関係であること示せ。ただし、 $\mathbb{N} = S(\mathbb{N}_0)$ である。また、 \mathbb{N} は \mathbb{Z} の部分集合とみなし、演算 \cdot は \mathbb{Z} における乗法である。

(解) (i) $q \cdot p = q \cdot p$ と定義より $(q, p) \approx (q, p)$ が成り立つ。(ii) $(q_1, p_1) \approx (q_2, p_2)$ とすると、定義より $q_1 \cdot p_2 = q_2 \cdot p_1$ が成り立ち、左辺と右辺を入れ替えると、 $q_2 \cdot p_1 = q_1 \cdot p_2$ が得られる。定義より $(q_2, p_2) \approx (q_1, p_1)$ となる。(iii) $(q_1, p_1) \approx (q_2, p_2)$ かつ $(q_2, p_2) \approx (q_3, p_3)$ とすると、定義より $q_1 \cdot p_2 = q_2 \cdot p_1$ かつ $q_2 \cdot p_3 = q_3 \cdot p_2$ が成り立つ。

$$(q_1 \cdot p_3) \cdot p_2 = (q_1 \cdot p_2) \cdot p_3 = (q_2 \cdot p_1) \cdot p_3 = (q_2 \cdot p_3) \cdot p_1 = (q_3 \cdot p_2) \cdot p_1 = (q_3 \cdot p_1) \cdot p_2$$

と簡約法則^{*1}により $q_1 \cdot p_3 = q_3 \cdot p_1$ が得られ、定義より $(q_1, p_1) \approx (q_3, p_3)$ が成り立つ。 ■

^{*1} (整数の簡約法則 ($p \neq 0 \wedge (q \cdot p = r \cdot p) \implies q = r$) の証明) r の加法の逆元を s とする。 $s \cdot p$ を両辺に加えて、分配法則を用いると、

$$(q + s) \cdot p = q \cdot p + s \cdot p = r \cdot p + s \cdot p = (q + s) \cdot p = 0 \cdot p = 0$$

が成り立つ。 \mathbb{Z} は整域であり、 $p \neq 0$ であるから、 $q + s = 0$ である。両辺に r を加えると

$$r = 0 + r = q + (s + r) = q + 0 = q$$

が成り立つ。 ■